

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイトに記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	矢野 琴星	学年(渡航時)	4 年
派遣先大学	カ・フォスカリ大学		
国・地域	イタリア・ヴェネチア		
派遣期間	2024	年 9 月 ~	2025 年 2 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Anthropology of the Contemporary Global World	カ・フォスカリ大学の機関である、SIE(School of International Education)から留学生向けに提供されている講義。受講言語は英語。教授は文化人類学の専門で、一方通行の講義というよりも、意見の交換やディスカッションを重んじるスタイルであった。講義は文化人類学の基本概念や学者等のレクチャーから始まり、ヴェネチアの観光についてなど、よりディープな部分も学ぶことができた。また、フィールドワークも実施され、ヴェネチアで調査を実際に行うこともカリキュラムに含まれていた。テスト 100%の評価ではなく、出席や授業態度も加味されるため、積極的に参加してさえいれば、単位取得はそこまで難しい。テストは記述式の問題が 4 題出題された。
Buddhism, Culture and Society	カ・フォスカリ大学が提供している講義のため、留学生だけでなく様々な学部 of 生徒が受講しているが、言語はイタリア語ではなく英語。今期は受講人数が多かったためか、教授が一方的にレクチャーする回が多かったが、内容はシンプルで、スライドには写真や動画が参考資料として多くあげられており、とても分かりやすい。ただ、1 st semester の間を通して行われている講義であるにも関わらず中間テストのようなものはないため、評価の機会はカリキュラム終了後に行われる最終テストのみである。範囲もかなり広いため、日ごろから細かに勉強しておくことが大切だが、内容自体はそこまで難しくなく、選択問題と記述問題が全体の半分以上出題される。以前この講義を受講した学生によると、この教授は文法の正確さも大切にしているということだったため、ほかの英語開校の科目は文法に対して厳しくないことが多いが、この講義は少し気をつける必要がある。
Business Experience Workshop 2 nd Edition: Participating in the present for a more sustainable future	これは講義ではないが、カ・フォスカリ大学日本語学部の学生と日本人留学生を対象に行われた(現在も行われている)ワークショップである。主催はカ・フォスカリ大学で、三菱と協働で 2024 年 10 月から 2025 年3月まで行われる予定である。申請すれば単位として承認され、取得することも可能である。今回が二回目のこのワークショップは、前回はわからないが、今回は応募者多数であったため、応募の段階で履歴書を提出し、審査が行われた。選ばれた合計35人は7つのグループに選別され、今は各グループ設けられたテーマごとに実現可能なビジネスプランを練っていると段階である。イタリア人と日本人で協力して作り上げていく必要があるのだが、まず言語の壁にぶつかったり、価値観の違いに悩まされたり、経済学を専門としているわけでない私たちにとってはかなり難易度の高いビジネスプランの提案を求められたりと、困難は山ほどあるが、それ以上に得られるものがある。来年も行われるかはわからないが、留学中、就活の遅れを不安に思う学生にはぜひ参加してほしい。半年留学の学生で、3月まで対面で受けることができなくても、帰国後オンラインで参加することが許されているため、そこに関しても留学生に寛容である。

留学レポート(1,500 字以上)

このレポートでは、①カ・フォスカリ大学について、②日常生活について(イタリアでの生活や、日本から持参してよかった物等)、③旅行について、④イタリア留学を通して成長したと感ずること、以上の 4 項目について述べていただこうと思います。(伝えたい情報が多すぎてかなり長いレポートになっています。太字の部分はキーワードなので、気になる部分だけ選んで読んでみてください。)

① カ・フォスカリ大学について

私の留学先であるカ・フォスカリ大学(ヴェネチア大学)は、観光地として人気のあるイタリア・ヴェネチアに位置します。経済・経営学部は設立当初からイタリア国内外から高い評価を受けており、そのほかにも、言語・比較文化学部、人文科学部、理学部等が主要な学部です。言語・比較文化学部のなかでもカ・フォスカリ大学の日本語学科はイタリアにある日本語系学部、学科において最も規模の大きく、イタリア各地から学生が集まっています。そのため、日本語や日本文化の学習に熱心な学生ばかりで、日本人留学生を歓迎しており、留学先としてかなり過ごしやすと思います。キャンパスはヴェネチアの島内に点在しており、日本語学科の授業は San Basilio という地域で行われています。移動手段は水上バスもありますが、基本的に徒歩です。初めは教室にたどり着くことすら大変かと思いますが、ほかの留学生と協力して頑張ってください。図書館も島中に点在しているのですが、San Basilio から近い CFZ Zattere という図書館は、土曜日を除いて深夜 0 時まで開館しており、内装もベンチャーのオフィスみたいな様子ですごくきれいです。電子機器を充電できる席もたくさんあります。CFZ に限らず、図書館の利用にはインターネット上での予約が必要です。私が派遣されたときは、入学時に welcome gift としてオリジナルデザインの水筒とトートバック、ノート等が配られました。キャンパス内には給水器が配置されているので、もらったボトルに給水するのがカ・フォスカリスマイルです^(観光地なので、スーパーですら 500ml のミネラルウォーターが最悪 200 円ちよつとすることがあります。水筒持参でキャンパスや図書館で水を汲むのがおすすめです。)

授業についてですが、留学生は学部にとらわれることなく、自分の興味のある授業を好きに選択することができます。授業形態としては大きく二つあり、カ・フォスカリ大学の持つ学部各々より提供される授業と、カ・フォスカリ大学の SIE(School of International Education)という機関から提供される授業があります。SIE が提供する授業はすべて英語で行われます。大学の学部が提供する授業の中には、もちろんイタリア語での授業もありますが、英語開講の科目もあり、私は、大学提供と SIE 提供から一科目ずつ選択しました。イタリアの大学の一般的な特徴として、入学するのは比較的容易だが、進級・卒業が難しいということがあるそうで、カ・フォスカリ大学もその特徴に当てはまるのですが、英語で行われる授業は留学生の参加も考慮されているため、特段テストや単位取得が難しいという印象はありませんでした。(イタリア語で行われている授業に関してはわかりません。)しかし、基本的に定期的な課題の提出はなく、出席日数も考慮されない上に、1 学期間を通して行われた講義でも、中間考査という概念はないため、学期終了後のテストですべてが評価されるという形態になっています。そのためか、追試の機会は 1 学期であれば学期終了から半年後の 6 月ごろまで2回ほど設けられていますが、帰国という期限のある留学生は、なるべく初回のテストで合格した方が安心だと思うので、追試の機会があるからと気を抜かず計画的に勉強することをお勧めします。

その他には、大学主催のインターンシップにも二つ参加していました。まず一つ目は、日本語学科の自由会話という授業でのインターンシップです。このインターンシップは、日本人留学生が相手となり、イタリア人学生の日本語の会話上達を目指すものです。名目上は授業となっていますが、主な内容は、大まかなテーマのもとでのフリートークで、習字や落語、花札をしたこともあり、イタリア人の友達をつくるためにラフに参加する日本人がほとんどでした。所属、派遣大学双方に連絡し、確認を取れば、特定の条件(出席時数等)をクリアしたうえで、インターンシップを通しての単位取得も可能です。授業は日本人の先生が進められます。もう一つは、カ・フォスカリ大学とイタリア三菱が共同で行っているワークショップ型インターンへの参加です。カ・フォスカリ日本語学科はイタリアで名高い日本語学の専門であるため、大学側がこのような機会を提供しており、当ワークショップは今回で二回目になります。ワークショップの期間は 10 月から 3 月までの約 5 か月間で、5 か月を通して持続可能な社会に向けた実現可能なビジネスプランを提案することをゴールとしています。実現可能な、というのは、実際に投資家陣から投資を受けられるほどのビジネス可能性を要するというので、かなり高いレベルが要求されるうえに、イタリア人学生と日本人留学生間でのグループ作業ということもあり、計画をスムーズに進めることすら困難を伴いますが、この 5 か月間を通して得られる成長には、その困難以上の価値があると思います。私は 2 月頭に帰国してしまったため、2 月と 3 月の残りのワークショップに出席することはできませんが、担当者に相談すれば、帰国後でもオンラインで参加することが可能で、これから先のスケジュールについてはオンラインで参加することになっています。当ワークショップについ

ても、所属、派遣大学双方に連絡し、確認を取ったうえで、単位を取得することも可能です。しかし、テスト期間である 1 月を除いた 4 か月間、月に一回の対面ワークショップに加えて、週一回のグループミーティングと週報、単語リストの提出が必須で、月に一度グループワークの進捗に関するBLOG(英日2バージョン、各A4で二枚程)をアップロードする必要があります。途中で離脱することは許されないため、責任をもって 5 か月間全うできる人には、ぜひ挑戦してみてください。おそらく第 3 回ワークショップも同時期に行われると思います。

② 日常生活について

まずは**生活費と物価**についてお話しします。ヴェネチア島内は狭く、大学提供の寮ですら家賃が月 10 万円ほどすることもあるため、島から本土に渡ったメストレという地域に住んでいました。ご縁があり、私は Wi-Fi 込みで 380€/月のアパートの一室にシェアハウスという形で住むことができましたが、同じ地域に住んでいた他の留学生の話を知り限り、450~500€が平均のようです。そこに食費が自炊分 150€/月、外食が 60€、光熱費が 50€、交通費 50€、SIM9€、日用品費 30€、交際費 180€で、合計月 909€(15 万円ほど)でした。旅行した月はこの額に 5 万円ほどプラスでかかりました。イタリア全体の物価としては、日本よりも気持ち高いかわらないくらいですが、観光地になるとやはり物価は高いと感じます。生活する分には、観光地から離れたスーパーで買い物する等、工夫が必要です。工夫すれば特に高すぎるとは感じませんでした。メストレは移民の多い地域のため、アジアマーケットやアフリカンマーケットなど、他国の商品も比較的容易に手に入ります。しかし、納豆 3 パックが 1,000 円や絹ごし豆腐が 300 円と、一部の商品は日本で買うよりもかなり高いことがあるので、どうしても食べたいとき以外買わないのが賢明です。日本の商品にこだわらなければ、日本では手に入らないような韓国や中国、アフリカの食材や調味料が安く手に入るので、日本以外からの留学生にその国の料理を作ってもらうなど楽しい体験ができます。私も実際に韓国人の留学生に韓国料理を作ってもらったりしました。

次に**交通手段と交通費**についてですが、ヴェネチア(島外も含む)内の移動には、UNICA というヴェネチア住民のみ所持できる IC カードのようなものを利用していました。月 25€(4,000 円ほど)で ACTV 社の路線バス、水上バス、トラムが乗り放題なので、メストレに住むことを考えている人は必須のサービスです。(水上バスは距離に関わらず乗船一回で 10€なので乗り放題月 25€はかなりお得。)UNICA はヴェネチア唯一のバスストップである Piazzale Roma の窓口で申請することができますが、9 月や 2 月の留学開始シーズンは混むことがあるので、2 時間ほどは見ていた方が無難です。また、必要書類は入学許可証のコピーとパスポートで、入学許可証のコピーが手元に一枚以上ない場合、日本のコンビニのような存在の Tabacchi という場所でコピーを依頼することができます。しかし、コピーを受け付けていない店舗があったり、英語が通じない場合もあるので、入学許可証は 3~4 部日本で印刷してからイタリアに来ることをお勧めします。UNICA の支払いはクレジットカードでできます。更新時は窓口に行かずに、水上バスの乗り場横にあるチケット発券機で手続きすることもできます。(英語に操作言語変更可)たまに ACTV 社のスタッフが抜き打ちでバスチケットのチェックを行っていますが、UNICA の更新し忘れや、携帯していない場合、100€近くの罰金を支払うことになるので、気をつけましょう。月 25€でヴェネチアを移動することができるため、交通費は比較的安く済みますが、ヴェネチア外の地域に行く際は別途交通費がかかります。(それについては③でお話します。)

また、日常生活での**支払い手段**についてですが、さすがヨーロッパ、支払いは基本的にクレジットカード対応です。おすすめのカード会社は Visa か Master で、近くのローカルなスーパーや大学の自動販売機でもクレジットカード利用可能ですが、マーケットや蚤の市のような場所では現金しか対応していないこともあるので、20€程は持ち歩くと安心です。現金を持ち歩きすぎるのはスリの可能性もあるので、かえって危険です。スリに関して言えば、クレジット支払いの場合、多くの人がカード本体を財布から取り出して挿入なりタッチ決済なりするのがほとんどだと思いますが、その際にうっかりカードをなくしてしまったり、財布を無くしたりする場合もあるので、iPhone ユーザーの場合は、スマホのウォレットというデフォルトアプリにカードを登録しておくことをお勧めします。(ウォレットは Apple Pay を利用するためのアプリ)そうすることで、決済時にカードをわざわざカバンから出す必要もありませんし、FaceID等のパスワードを入力しないと決済できない仕組みになっているので、カード紛失に伴う不正利用の心配もかなり減ります。また、インターネット上で買い物するときや、チケットをとったりする際にも Apple Pay が利用できる場合が多く、いちいちカード番号当を入力しなくとも決済できるため、かなり便利です。Visa や Master でも時々決済エラーが出ることがありますが、Apple Pay ならできたということもありました。(おそらく海外利用に関してセキュリティがしっかりしすぎているから?) 現金が必要な際は、日本と同じように **ATM** を利用することができます。私はイタリア渡航前にゆうちょ銀行のキャッシュカード兼デビットカード(Visa)を作成していたので、そのカードを使って引き下ろしていました。注意事項としては、ATM の操作指示に従わないと、カードが機械の中に飲み込まれる可能性もあるらしいので要注意です。また、イタリアらしいと思うのが、ATM の機械の中に現金が入っていないことや、天候が悪い

と通信がうまくいかず ATM が利用できないこともあるらしいです。旅行先や観光スポットによっては現金のみのところもあるので、旅行時は特に現金を携帯しましょう。

SIM については、Iliad というキャリアの SIM を利用していました。契約は Iliad の店舗に行き、ATM のような機械で個人情報と支払い情報を入力すれば 10 分もかからずに完了します。操作は店舗のスタッフが手伝ってくれます。私はメストレにある Nave de Vero というデパートの中に入っている Iliad (店舗というよりは、日本でいうウォーターサーバーの勧誘のような様子で、通路の中央にブースがあります) で手続きしました。月たった 9€ 程で、イタリア国内は 120GB まで、国外ではローミング利用で 11GB まで使用することができます。しかし、手続き自体は簡単でも、SIM の入れ替えがうまくいかないことも多いみたいなので、契約後、その場で SIM を入れ替え、動作確認をスタッフと一緒にすることをおすすめします。

イタリアというと**治安**が気になるところですが、ある程度の自由が許されている分、日本よりも治安、民度の悪さは感じます。特に、メストレはイタリアの中でも特に治安が悪いと言われている地域なので、メストレ駅前の Via Piave は夜遅くには絶対に一人で通らないでください。それ以外の道は観光客が通っていたりするので、特段危ないことはないですが、やはり夜遅くには出歩かない方がいいです。治安が悪いというのも、スリが多発しているというよりも、ドラッグディーラーや薬物使用者がいるといった雰囲気です。日中でも不必要に人と目を合わせたり刺激したりすることはないようにした方がいいですが、気を付けていれば巻き込まれることや襲われることはありません。しかし、ここまで危ないのはメストレ駅の周辺だけで、メストレセントロ (市内) の方やヴェネチア島内はそんなこともないので安心してください。ヴェネチアだけでなく、ミラノやローマもピックアップが多い地域として悪名高いですが、カードやパスポートはバッグの奥にしまっておくことや、しっかり口が閉められるカバンを使うことを徹底し、人ごみでは特に気を付ければ、普通に生活、旅行できます。

最後に、**イタリア人の性格**についてお話しします。今回の渡航が私にとって初めてのヨーロッパで、ヨーロッパの人というと、ステレオタイプ的にアジア人に冷たいのかと思っていたのですが、そんなことはなく、優しく温かい人が多かった印象です。私が人に恵まれていた可能性も無きにしも非ずですが、イタリア人は特に優しく温かい人が多く、感受性豊かで、精神的にも、身体的にも、ふれあいやあいさつを大切にしている人が多いと感じました。拙いイタリア語でも聞き取ろうと親身になってくれますし、上手に発音できたときはすごく褒めてくれます。また、これはイタリアに限った話ではありませんが、家族との距離が近く、家族愛についてもオープンです。数回イタリア人の友人の実家に招待してもらったことがあります。家族愛を深く感じるとともに、客人に対する惜しみないホスピタリティに都度驚かされました。イタリア人的には自分が一人暮らししている家よりも、実家に招くことの方がハードルが低いらしく、逆に実家に人を招いたことがない私からしたら、日本人の比にならないもてなし加減に感動しました。おそらく一流ホテル以上です (行ったことないけど)。また、キリスト教徒ということもあり、食事の前には一緒に祈りを捧げました。教科書やテレビで見たことはあっても、実際に経験するのは初めてだったため、これまた感動しました。

③ 旅行について

旅行に関しては、主に旅行手段と、滞在先の二つに分けてお話しします。まず、**旅行手段**についてです。ヨーロッパの中でもシェンゲン協定圏内は出入国が容易で、かなり旅行しやすくなっています。空港でのイタリアからシェンゲン協定国への移動においては、保安検査後、パスポートと搭乗券だけ持ってそのままゲートに直行すればすぐ飛行機に乗れるし、入国の際も入国審査等は全くなく、飛行機を降りて経路案内に従えばすぐに出口に出ることができます。島国出身からしたら衝撃的だったのが、シェンゲン協定国間の移動であれば、長距離バスで国境を越えることができます。ヨーロッパで広く利用できるのが、Flixbus というバス会社で、ヴェネチアからもバリ行きやドイツのミュンヘン行きが出ています。クロアチアに行った際もこの Flixbus を利用しました。Flixbus は国外へ移動するときだけでなく、イタリア国内移動の際にも利用できますが、国内利用でいうともう一つ itabus というバスを利用することもできます。(Flixi tabus も予約必須) こちらはイタリア国内のみの移動になりますが、安い時はヴェネチアからミラノまで 4€ 程度 (600 円程度) でいけることもあり、かなり旅費を抑えることができます。安すぎではじめは心配ですが、バス内の治安が悪いといったことも、運転手の運転がものすごく荒いということもなく、いたって普通の長距離バスです。ただ、先ほども述べた通り、民度はそこまで良くないので、横に座っている人がいきなりタッパーに入ったパスタを食べ始めたりと、公共交通機関の中では通話すら NG の日本人の感覚からしたらはじめは驚きますが、それくらい自由に過ごしていいいということなので、人によっては日本の長距離バスよりもかえって気楽に過ごせると思います。治安は心配ないですが、遅延やキャンセルはよくあることなので、必ず出席しなければいけない予定がある場合は、鉄道や飛行機 (ライアンエアー以外) を利用した方がいいと思います。長距離バスに限らずですが、国境を超える際はパスポートが必要なので、手荷物の方のカバンに入れておくようにしましょう (セキュリティは厳重に)。カ・フォスカリ大学に入った際に、ESN カードというものを登録する人もいかもしれませんが、登録に

は 10€程必要ですが、ヨーロッパのLCCであるライアンエアーや先ほど紹介したFlixbus、itabus予約時に使えるクーポンが発行できるので、旅行にたくさん行く予定のある人は登録しておくことをおすすめします。InstagramのESN Veneziaというアカウントで情報が発信されているはずなので、チェックしてみてください。イタリア国内では trenitalia という鉄道会社が運行する鉄道が走っていますが、慣れたら長距離バスの方が数倍お得なので、せっかくだから長距離バスでの移動に挑戦してみてください^^

次に**滞在先**についてです。旅費で大部分を占めるものといえば、現地までの交通費とホテル代等の滞在費ですが、私は滞在費を抑えるために、3人で旅行してトリブルームを予約したり、個室が高い時はホステルに滞在したりしていました。どの国に行くにしても大体一泊 30€の予算で考えていましたが、物価の高いヨーロッパでも基本的に一泊 30€以下で見つけることができます。ホステルは、鍵付きのロッカーと、ベッドにカーテンや間仕切りがついており、プライバシーが確保できる部屋、女性の場合は女性専用ルームがあることを条件に探すといいです。また、イタリアやフランス、スペインの場合は、夜に治安が悪くなる地域もあるため、そこを避け、口コミを参照しながら、バス停やトラムの駅が近い場所を厳選していくとホステル選びで失敗することは少ないです。ホステルでは、短い期間ではあっても赤の他人との共同生活を強いられるため、思わぬ出会いがあることもありますし、期待すらしていなかった人のやさしさに触れることで、忘れられない思い出になることもあります。一人旅をしたい方や旅先での出会いが欲しい方には特におすすめです。

④ イタリア留学を通して成長したと感ずること

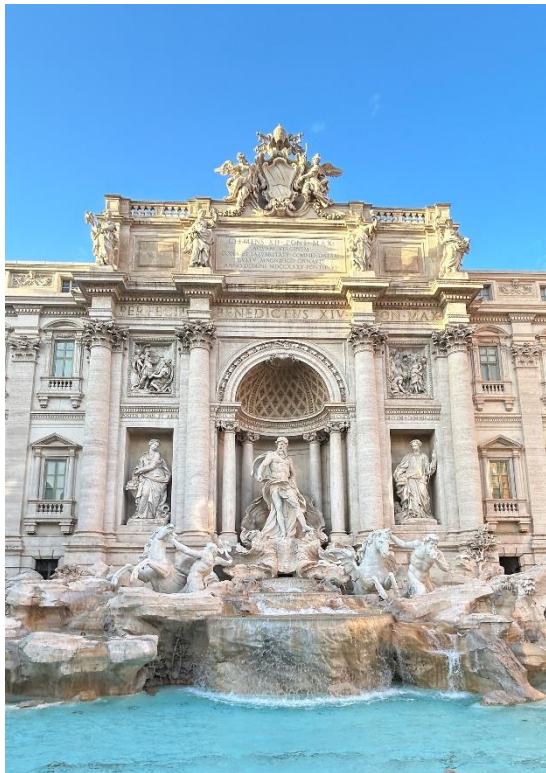
私が成長したと感ずることは、大きく三つあります。まず、人間関係に責任を持つようになったことです。イタリアで出会った方々はもちろん、私には日本で私の帰りを数か月も待ってくれている人がいました。その人たちは私の姿を直接見ることもできないのに、私のことを信じて応援してくれて、私のために仕事や学校を頑張ってくれていました。その人たちの頑張りに応えるためにも、改めて相手に誠実でいるべきだと考えるようになったし、例え誰も見ていなくても、苦しさにも何もかも諦めそうになっても、責任をもって相手と向き合おうと考えるようになりました。また、留学中に会った友人たちはこの先なかなか頻繁に会える距離に住んでいるわけではないので、一日一日を大切に、小さなことですが、あいさつをより大切にするようになりました。日本では、待ち合わせの際や人と会った際に、その人の今日の調子を聞くということはあまりメジャーではありませんが、イタリア留学中は出会う人全員が「元気～？」と聞いてくれることが今思えばささやかな心の支えになっていたのかと思います。英語圏や韓国にも同様の文化があることは知っていましたが、私もこれからあいさつもっと大切にしていきたいなと思いました。

二つ目に、自分と向き合う時間を持つことで、将来やりたい仕事や理想の人生像、家族像を明白にできたことです。私は四年次での渡航開始で、派遣先大学で単位取得に固執する必要がなかったため、割と好きなように好きな授業を取り、現地で出会った方々と話す時間を多くとるようにしていたのですが、日本で生活しているときは一日のかなりの割合を占めていたアルバイトをする必要がなかったため、必然的に自分について再考する時間が増えました。そのなかで、私が過ごしているこの留学生活は、貸与奨学金 120 万円分の価値があるのか、私はこの留学生活を 100%有意義なものにできているのか、と悩むタイミングも何度もありましたが、それよりも、イタリア人の深い家族愛に触れられたり、思いがけない出会いがあってイタリアで三菱と合同のインターンに参加できたり、モヤモヤと悩み続けるよりも勇気を出して行動してしまった方が性に合っているとわかったり、日本愛の強い日本語学科の学生から日本の良さを聞くことで、それを再確認できたりと、苦しんだ時間以上に得られたものが多かったことに後から気づきました。

最後に、本当の意味で「大人」への第一歩を踏み出したことです。私は二年前に成人式を終えましたが、当たり前、式を終えたからといっていきなり「大人」になれたわけでもなく、当時は自分のメンタルや将来すらどうでもいいと思っていたほど、自分や周りに愛情がなく、無責任でした。ですがイタリア渡航前から、親の手を借りない初めての公的手続きを嫌というほど経験し、様々な要因から何度も留学自体を諦めかけ、ようやく留学が決まると、楽しみというよりもやっとここまでたどり着けたという気持ちと、お金と時間をかけた分、留学への義務感の方が強くなっていました。渡航前は私の人生の中でもかなり辛い時期でしたが、それを乗り越えられたことで強くなったと思うし、「締め切り」は本当に締め切りであって、なんでも早めに準備することの大切さを改めて学びました(でもまだ苦手です。すみません。)。加えて、イタリア人とそこで出会った留学生たちのものすごく深い愛情をダイレクトに受けることで、私も周りに思い切り愛情を表現するようになったし、日本への愛情を再確認することで、今まで正直あまり興味のなかった政治にも積極的に参加していきたいと思うようになりました。みんなが好きだと言ってくれる日本のイメージを守り、より良くしていけるように、当事者意識をもって愛情深く生きていきたいです。

Ciao Ciao~^^

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



トレヴィの泉



コロッセオ



ヴェネチアのクリスマス



ヴェネチアの期間限定遊園地



クロアチアでのサンセット



シチリアの風景



カ・フォスカリ日本語学科のみんなとクリスマスパーティー
(手前の進行役4人は浴衣を着ています^^)